野営法研究会 Step1、Step2 の履修課目 比較一覧

★印は事前課題として実施し、申込み時に報告書として提出するもの。
 ◆印は研究レポートとして提出するもの（研究期間は事前でも事後でもかまわない）。
 ◇印は事後課題とし、報告書を提出するもの。
 【 】は関連進歩課目。 TB：ターゲットバッジの略

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント
1. スカウトキャンプについて	①スカウトキャンプとは何かを知る。(★課題の範囲は P.2-P.19) (⇒ §1) ②スカウトキャンプの種類と必要な条件を知る。(★課題の範囲は P.2-P.19) (⇒ §1) ***** 《参考》 ●ビーバー隊の宿泊プログラム実施にあたっての条件 ①ビーバー隊が宿泊を伴う活動へ参加する場合は、団会議で協議し、団委員会の承認を得ること。 ②宿泊は舎営とし、宿泊地は近隣、宿泊数は、1泊2日を原則とする。 ③指導者による事前現地調査を十分に行う。 ④引率にあたる指導者は、隊活動において十分な経験を有する者がこれにあたる。(Step1 修了者) ⑤指導者、支援者(補助者を含む)の役割分担を明確にし、安全管理者を置く。 ⑥安全管理のため、スカウト3名に対して成人指導者1名が同行する。(スカウト数が少ない隊においては、成人指導者の割合を50～70%にすること) ⑦活動内容を事前に、十分に保護者に説明し、理解させ、協力を得る。 ⑧就寝時、指導者はスカウトと同室とする。 ⑨ビーバー隊だけの単独での宿泊を伴う活動は実施しない	①どうしてボーイスカウトはキャンプを行うのか、それはどんな意図をもって、どんな効果を狙って、どのように行われるのかを、ここでは知る。 ②ビーバーはキャンプを行わない。カブは3つの形態がある。ボーイは班もしくは隊の固定キャンプが主で、ベンチャーは、それにソロと移動キャンプが加わる。 ※このセッションでは、カブ隊におけるキャンプとボーイ隊以上が行うキャンプの違いも明確に伝える。 今後のセッションは、基本的にボーイ隊以上のキャンプの内容となるが、カブのキャンプを行うに当たっては、カブ隊指導者(特に隊長)は、ボーイ隊隊長と同じ程度の野営技能が求められていることを、チャートやグラフィックを用いて提示する。 ※また、カブのキャンプについては、その実施条件を明示し、その条件が満たされていない場合、及び資格のない隊長によるキャンプ(テントによる宿泊)は、コミッショナーから認められないことを知らせる。 ※ビーバー隊については、宿泊プログラムについては実施ができないが、団行事・地区行事の事情により、やむを得ず宿泊を伴わなければならない活動をする場合には、安全対策を十分に図り、左記の条件を全て満たした場合のみ実施が可能であることを知らせる。	①「スカウトキャンプ」の意義と方法を理解する。 ②「ちかい」と「おきて」、そして班制度をどのようにキャンプに活かすかを知る。 ③「野営基準」について理解する。★	①どうしてボーイスカウトはキャンプを行うのか、それはどんな意図をもって、どんな効果を狙って、どのように行われるのかを、Step1では「知る」だったが、ここではそれを再確認するとともに「班制度」に即して、それをスカウトキャンプに適用できるような理解する。 ②「ちかい」と「おきて」については、キャンプの全てのシーンで実践できるが、特に生活面で、1人のスカウトとして、また班という小社会の一員としてどんな意識でどのような行動を取ればいいのかを考え(→能動的積極的関与とチームワーク)、実行できるように持って行くことが求められる。つまりモチベーションを高めていくかである。それには、常日頃から機会を設けて、これらについて、GBを通じてスカウトに理解させることが必要。 ③野営基準については、「野営法研修資料(S54) (県連ホームページ・TTチームにある)を参照されたい。
2. 計画・準備・プログラム	①「指導者のためのスカウトキャンプ」(P.9-P.19)を読み理解する。(★課題の範囲は P.2-P.19) (⇒ §2) ②隊長の指導の下にスカウト向けにキャンプのしおりを作る。 (⇒ §2) ③キャンプについて、保護者に提供すべき必要な情報をまとめ、それを紙媒体で提供する。 (⇒ §2) ★事前研修課題は、②と③を作成するに当たって必要となる項目を列記すること。	①まずは基本的事項を知ってもらうために精読してもらう。疑問点をピックアップさせる。コース終了時に解決の有無を確認する。 ②どうして「しおり」を作る必要があるのかを考えてもらう。 ・モチベーションアップ ・概要の把握とスケジュールや基本情報の提供 ・持ち物や事前準備の周知 →必要項目の確認 ③保護者が求める情報、保護者に伝えるべき情報を知り、それを効果的・確実に伝える方法を考えてもらう。危急時の対応も含めて、支援体制の構築の意味もある。	①キャンプ地の選定の基本的条件と自然環境を保護するための注意点をを知り、実際に適切なサイトを選定できる。【野営章(3)改】 ②中期(長期)キャンプの日程、プログラムが立てられる。 ③実施手続、連絡・調整等の手続ができる。 ④キャンプの目的に合ったキャンプ場を選び、下見に必要な項目を挙げ、実際に下見を行う。	①指キャンP.12-14をよく読んで、実際にキャンプを行えそうな近隣の場所3-5カ所を巡って評価表を作成し、キャンプの目的に合った場所を選定してみる。 自然環境については、ミクロ的に見るかマクロ的に見るかによって異なる。いずれにしても、「残すのは感謝のみ」をどう実行するかが、ミソとなる。 ②中期(長期)キャンプの日程と短期キャンプの目的の違いを理解させることからスタートする。キャンプ地のロケーションを活用し、目的・目標、そしてスカウトのニーズを満たすキャンプ日程・プログラムを、諸条件を考えながら立ててみる。 更には、モチベーションの維持、疲労と休憩、短期ではできない取り組みなども考慮する必要がある。 ③キャンプを実際に行うにあたって、行政や団・県連への届け、借用手続、打ち合わせ、救急医療体制、事故時の連絡体制、避難体制等の確認をし、それをまとめてスカウト・保護者向け「しおり」や指導者で情報を共有するファイルを作成する。同時に、キャンプ実行組織表を作成し、指導者それぞれの業務分担と責任体制を明確にすると同時に、その補助・支援の体制も構築しておく。このレベルまで行うことを知る。 ④は、①②③の仕上げと確認の意味を含めて実際に行う。特にプログラムについては、安全と危機管理を重点に確認する。→下見まではできないので、下見の実施については、ここで学んだことを、後日、実際におこなっていただくこととする。

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント
3. 設営の準備 -1. サイトレイアウト	<p>①地形、水利、植生、風等に留意して班サイトを定める。 ➡ §4)</p> <p>②班サイトを構成するテントや工作物を知り、机上でレイアウトしてみる。 ➡ §4)</p> <p>③代表的なテントの種類、特徴、用途を知る。【野営章(4)】 ➡ §3)</p>	<p>①安全・安心・快適なキャンプでなければ楽しむ＝良い影響を与えることは難しい。それらを満たす自然要素について考え、良い要素について理解してもらう。</p> <p>②安全・安心・快適なキャンプを送るための設備（テントや工作物）を知り、いろいろな要件によりレイアウト（配置）考えてみる。（要件：傾斜、風向き、日照、晴雨、人数、季節など）。班サイトレイアウトの基本的考え方については、実施要項に掲載する。</p> <p>③キャンプを行うスカウトの年齢構成、活動単位、期間、経験度、交通手段、移動か固定か、季節、地理的要素等により、使用するテントが異なる。そのことを知り、対象とするスカウトに最も適したテントを選べるだけの知識を備える。</p>	<p>①班のキャンプサイトの理想的な配置図を描き、実際にその通りに設営をする。【野営章(4)改】</p> <p>②隊本部と班サイトの位置関係、セレモニー等の広場の位置関係を知る。</p>	<p>① Step1-3-1 ②を更に発展させ、動線を考えてテント、工作物等をレイアウトする。そして、実際にテント等を張り、工作物を設置してみて、動線や配置を検証する。</p> <p>②隊本部（指導者サイト）は、各班サイトから等距離（班サイトを同心円状に配置した中心）に置くセレモニー広場を近くに置くことが基本。（これはBSの場合、CSは異なる）ここで指導者はスカウトに準じた規律ある生活を送る。指導者のサイトはクローズせずに、セミオープンつまりスカウトから指導者の姿がある程度見えるように作る。 CSとBS,VSのそれぞれの違いを、そのキャンプの目的に即して考えて行く。</p>
-2. 装備・パッキング	<p>①春秋における1泊キャンプ、及び夏季における3泊のキャンプに必要な個人装備を調べ、リストを作る。 ➡ §3)</p> <p>②班キャンプに必要な班装備を知り、リストを作成する。 ➡ §3)</p> <p>③班装備品の正しい取り扱い方を知り、整備と保管の方法を知る。 ➡ §7、§14)</p> <p>④標準的な隊キャンプに必要な装備をリストアップする。 (1,3,5泊それぞれ) ➡ §3)</p> <p>⑤隊キャンプに必要な装備の正しい取り扱い方を知り、それを実際に使用し、その使用方法を説明できる。 ➡ §5、§7、§13)</p> <p>⑥正しいバックの背負い方を知り、それに1泊キャンプの装備を入れて実際に背負って、そのパッキングの良否を確認する。 ➡ §12)</p> <p>⑦スリーピングバッグとマットの種類と材質による性能の違いを知る。 ➡ §12)</p>	<p>①まず現時点での参加者レベルでの1泊キャンプの個人装備をリストアップする。そして次に標準的なリストを提示し、修正させ、3泊に延長すると何が加わるかを伝える。さらに§16の「評価とリストの確認」時に、「必ず使用するなもの」「あると便利で役立つもの」「使うかもしれないもの」の3区分を設けて上記のそれぞれの項目に分けてチェックし、修正させます。</p> <p>②班装備は、すでに各団では配備されているでしょうから、季節や期間という条件により変更はないでしょう。これも標準的なものを示します。</p> <p>③基本的に使用に危険が伴うもの（刃物）については§7の冒頭で説明します。整備と保管については、§14となるので、その時に検証しながら実施します。</p> <p>④隊装備については、行うキャンプの内容により、班装備の不足を補うもの、プログラム関連用品、安全・衛生関連等の装備、救護用装備そして、指導者用の装備が加わります。また、カブのキャンプにおいては、「班装備」という概念がないので、全て隊装備となります。この点を確実に伝えます。</p> <p>⑤この意味は、安全な使用・管理方法を知るといふ所に趣旨があります。単に知ることではなく、実際に各自がそれを使って実際に作業をして確認した上で、参加者に説明をさせてください。そこに意味があります。</p> <p>⑥スカウトを指導するにあたって、まず各自が装備を詰める、背負う、移動するを体験します。不具合を解消することで、正しい方法を理解していきます。成人と少年の体格（骨格と筋肉）の違いを十分に配慮することを知らせます。</p> <p>⑦疲労を解消し英気を養う睡眠について、寝具を通して検証します。実際に触って寝てみて、その感触と効果測定をしましょう。それぞれの求める性能については、野営法講習会で説明済みですが、ここでも再度それをお復習いします。</p>	<p>①指示された期間、季節、形態別にキャンプに必要な個人装備と選択基準を知る(軽量・信頼性・機能性・コンパクト、スタッキング等)を知り、リストを作る。</p> <p>②個人装備の選び方、正しい取り扱い方を知り、2泊以上のキャンプに必要な個人装備を適切な大きさのバックにパッキングし点検を受ける。(季節感を取り込むこと) 【野営章(9)】</p> <p>③個人装備をできるだけ小さくパッキングする(班装備品を個人装備に加えて運搬することを考えて)。</p> <p>④班装備品を各班に責任を持って管理させる方法を考える。</p> <p>⑤シューズの選び方を知る。自分の足のサイズを実測し、フィールドに必要な機能を考慮して、自分に合ったものを選ぶ。</p> <p>⑥キャンプに必要なウェアとその機能を知り、その活用場面を考える。</p> <p>⑦季節と状況に応じたスリーピングバッグの使い方、応用法を知り、実践する。</p>	<p>①リストを作る際には、そのカテゴリーを「必ず使うもの」「キャンプを快適に過ごすためにあれば便利なもの」「めったに使わないもの」に分けてリストアップする。また、長期野営や雪中キャンプの経験がなければ、具体的にリストアップできないだろうから、Step2 履修前のある程度に経験をしていることが望まれる。また、選択基準の(軽量・信頼性・機能性・コンパクト、スタッキング等)については、具体的に例示することで、理解を促してもらいたい。</p> <p>②実際に背負って行動できる重量は個人差はあるが、成人で体重の1/4までと言われており、ボーイ年代では1/5程度が限界だろうと思われる。2泊以上となると、①「必ず使うもの」はもちろん、「キャンプを快適に過ごすためにあれば便利なもの」を携行することになる。これを指導者自身が背負って歩くことを体験することは大切なことである。一般装備に加え、冬は防寒装備が、夏は遮熱・防虫・着替え等の装備が加わってくる。まずは、1つのバックに全てを詰め込むこと。次に使用頻度とシチュエーションを考えて、ウエストバック等を考える。そして、1kmでも良いから、実際に歩いてみる。Step1で学んだバックのフィッティングを再確認しよう。</p> <p>③小さく・・・とは、必要な装備をできるだけ少ない容積で納めること。装備を重ね合わせる、隙間をなくす、隙間に詰める、小さく折りたたむ、薄手の衣類にする・・・等が考えられる。基本的に装備を買い揃える時に、パッキングを意識して小さくなる物を選ぶようにする。ただし、班装備を分担する場合は、それを含めて重心や上下のバランスを考えてパッキングする。</p> <p>④これについては、いろいろと考えられる。</p> <p>⑤シューズの選択基準は、まず使用状況を考えること。山岳か丘陵・低山か、平坦路なのか、荷物はどれだけ背負うのか等である。これで選ぶモデルが決まる。次に、自分の足に合ったものを選ぶ。「足に合った」は以外と難しいので、別紙で述べるが、つま先の余裕を必ずとること、午後もしくは夜に靴を選びに行き、必ず履いて確かめること。</p> <p>⑥まず基本的に考えなくてはならないのが「保温」と「汗の蒸散」。このメカニズムを理解すれば、どんなウェアが必要なのかが解ってくる。袖丈、身ごろ丈、大きさについても言及。また、若者と年寄りに新陳代謝、身体機能の違いについても考慮していこう。</p> <p>⑦化繊とダウンの使用シーンの違い、低地と高山、活動形態によるパッキングなどいくつかの項目を設定して考えさせる。加えて、カバー、シャツについても、その機能と使用方法を考えて行く。また、実際に持っているスリーピングバッグでは性能不足である場合の、あるものを利用した性能アップについて考えさせる。</p>

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント
-3. 試行・予行			① 1泊キャンプに必要な個人装備を携行し、徒歩行程約12km以上の距離を他の1名と共に24時間以上にわたって旅行し、その報告書を提出する。◆(野営法研究会 Step1 の仕上げとして後日実施)	① 3-2 ②でも装備を背負って歩く体験を求めているが、まず手始めに1泊2日の装備を背負って1kmを歩くことを経験してもらう。時間的にこれ以上は無理なので、左記課題については、Step2修了後6ヶ月以内実施して報告書を提出することで、最終修了認定を行う。 もちろん途中で1泊キャンプを行うこととなる。単に歩くだけではなく、1級ハイイク同様、なにかしらの課題をもって臨んでもらいたい。 この移動キャンプについては、指導者自ら体験することに意義がある。したがって、きちんとした手続きと体験、そして報告を求める。
4. 設営・撤営およびメンテナンス		この課目も、コース全体を通して行うことになります。		
-1. 設営の順序	①天候(晴天・雨天)・季節(夏季、無積雪、積雪)・宿泊日数に応じた、設営の順序(優先順)を知る。 (⇒ §5)	①まず、標準的な「晴天」「無雪期」での設営を基本として理解します。 設営の順序は、「食う・寝る・排す」ではなく「寝る・食う・排す」の順序が基本となります。 まず、基本的な設営を行い、快適さと衛生については設営後の「日々の改善」によって随時獲得していきます。 続いて、夏季は、直射日光による被害(人体・食料)を避けるために日射を遮るものが最初になります。§4をふり返し、サイトレイアウトを参照しながら、会場の土質、傾斜、風向きに注意して設営を行います。 雨天時は、ぬかるみや泥を直接テントに付けないように、床の部分を超えて濡らさないように設営します。(最近の指導者テントのグランドシートは完全放水なので安心。)雨天時以外と若干張って方が違ってきますので、そこも確認させてください。 茨城では、春先は意外と風が強い日が多く、初夏は多湿。夏は雷雨や猛暑、秋口も残暑が残り、その直後から急に冷え込む。晩秋も風が強い日が多い傾向にあります。冬ですが、耐寒キャンプ以外はまずキャンプはしません。特に積雪時のキャンプはまず行いません。 ボーイ隊プログラムとしては、雪中キャンプはありませんが、もし地区コミの許可がでて、雪中キャンプを実施する際は、別途冊子として発行している「雪中キャンプの要領」を参照ください。	① 3泊4日の隊キャンプに必要な全ての装備(隊装備、班装備)をリストアップし(Step1-3-2-④)、そのリストにしたがって準備・パッケージ化し、輸送する。(車載、宅配等) ② 3-1-①のサイトレイアウトに基づいて、設営における優先順と役割分担による分担設営で、効率的な設営をする。	①これは、実際に行ってみる。時間制限のある中で、如何に効率よく設営を行うか、役割分担がものを言う。「班」として如何に制限時間内に、基準以上のレベルをもって作業を終わらせるかを求める。

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント
-2. テント・タープ等	<p>①テントの構造と各部の名称・機能を知る。 (➡ §5)</p> <p>②標準的な張り方・しまい方を知り、実践する。(家型テント、ドームテント、タープ) (➡ §5、§14)</p> <p>③雨天、強風、夜間における張り綱、支柱、ソドクロス、換気窓・扉の扱いを知り、その処理を実践する。【野営章(5)】 (➡ §5)</p> <p>④ペグの打ち方と張り綱の扱いを知り、実践する。 (➡ §5)</p> <p>⑤保管のための乾燥と手入れ法を知り、実践する。 (➡ §14)</p> <p>⑥次のキャンプ用品の格納・保管にあたり、行うべき処置を知り、行う。【野営管理章(5)改】 ・テント ・フライシート ・グランドシート ・ペグ ・工具 ・炊具 ・毛布、寝具 ・ロープ類 ・キャンピングストーブ ・ランタン等 (➡ §14)</p>	<p>①まず、テントの構造とどうしてそれが建っているのかを考えさせます。次に各部の名称とその機能について、それがどのような役割を担っているのか、他との関連を含めて理解させましょう。</p> <p>②まずは、「タープ」が一番先です。そこに班装備や個人装備を置きます。次に「班用テント」、最後に「ドームテント」の順となります。時間的に余裕があれば「指導者用テント」も含めてください。 取り出す順序、部品の数量のチェック、収納袋の管理を忘れずに行います。たたむ時も折り目、空気抜き、たたむ大きさ、収納順序、負荷のかかり具合等に注意させます。</p> <p>③張り綱の材質により、水分を含むと延び縮みが生じます。強風に対しては、構造を考え風を孕まらずにどう受け流すかを考え、ペグが飛ばされないよう補強します。雨・露によるテント布地の通気性具体、換気(換気窓)、雨水の浸入を防ぐソドクロスの正しい設置、それぞれの乾燥方法も。</p> <p>④ペグの構造を知り正しく使う。綱は汚れば劣化する。打つ角度は何度がいいのか。どこまで打ち込めばいいのか。ペグが抜けないとき、抜けやすいとき、地面が凸凹で、一定角度に腰綱が張れないとき、等にも触れます。</p> <p>⑤テント、タープに対してです。水分→カビによる布地の劣化、アレルギーの誘因。泥→酸化による布地の劣化、折り目の摩擦等負荷による防水機能の劣化……がありますので、それを除去すること、回復することを収納前に行います。</p> <p>⑥基本的には、初期性能の維持、もしくはそれに近い性能を保つための措置＝メンテナンスと保管です。 汚れはとる(洗う、拭く、ブラッシングなど)。濡れていたら干す、乾かす。潤滑が必要なところはグリスアップ、錆が出そうなところには防錆油を塗る。故障は補修を試み、だめだったら専門業者に修理を依頼する。部品が破損したものは交換し、また、性能的に安全が確保できないものは交換する。修理も交換もできないならば、廃棄し新しいものと交換する。</p>	<p>①ドームテント、家型テント、指導者用テントについて、特徴、用途、構造と機能を知り、他の1人と協力して適地にそれぞれのテントを正しく張り、また手入れして格納をする。【野営章(4)改】</p> <p>②毎日、天候等に応じてテントの配置、及びタープの張り方を変更する。(雨、風、タープ下での作業の度合いを考慮)</p> <p>③異なる天候(晴天、雨天、強い風等)によるテント及び床の乾燥方法を知る。</p> <p>④雨天時の格納法と汚れた場合のクリーニング法を知り、雨天時に地面に接することなくテント・タープをたたむことができる。</p>	<p>これらについても、4-0-①の中で展開する。 ①②は設営時、 ③④は日々の改善で ⑤⑥は撤営、メンテ時に行う。</p>
-3. 撤営の順序・収納	<p>4-3-①撤営について、その意味を知り、その順序(前日・当日)と手続を考え、それを実践する。 (➡ §15)</p> <p>4-3-②サイトの清掃を行い、感謝の心で原状復帰を行う。 (➡ §15)</p> <p>4-3-③運搬及び倉庫への収納を考慮した、装備の梱包・パッキングを行う。 (➡ §14、§15)</p> <p>4-3-④ナイフ、かま、シャベル、なたを研いで手入れ・保管する【TB-E3-3】(包丁は7-1-①で行う) (➡ §14)</p>	<p>①「撤営は次のキャンプの大切な準備である」すなわち、物的には「次のキャンプには中味を確認することなく、それを使える状態にしておくこと」である。 順序としては、「指導者のためのスカウトキャンプ」に詳しく出ているので、それを事前にかくにんしておくこと。</p> <p>②サイトの清掃と現状復帰については、キャンプの一切の痕跡を残さないことを美徳としている。すなわちゴハン粒1つ、工作紐の切れっ端1つ落ちていない状況、掘った溝や穴の痕なんぞはほとんどもない。何ひとつ痕跡を残さないことを徹底することを伝える。なにのために? 自分で考えよう。</p> <p>③収納の最終形を考慮し、かつ運搬性をよくする梱包・収納を行うことは常識としてわかるだろう。小さくまとめること(きちんと折りたたむ、空気を抜く、スタッキング)は、ただまとめるだけでなく、材質・性質・硬軟・重さ、傷や破損の有無などを確認することにも繋がる。 また、適したサイズの容器にきちんと詰める、デッドスペースをなくする、容器がない場合は、できだけ四角形に収納する…など。</p> <p>④刃については、片刃・両刃、そしてエッジ角があることを知った上で研ぐことが大切。刃や柄について汚れはきちんと洗い落とす。そして水気を切り十分に乾燥させ、CRC556等の防錆油を塗るところまでは、みんな知っているハズ。ここでは、それを収納ケースに入れるところまでを実施させる。ケースが内場合は、荒縄で巻いたり、新聞紙で刃をくるんだりし、他の工具とぶつかり刃こぼれをおこしたり、無用な傷を作らないようにする。</p> <p>◎保管する際は、「ありがとう」「よくやってくれたね」の感謝の気持ちを込めて、手入れしよう。</p>	<p>①撤営について、天候等による対応の変化を理解し、効率的な撤収、空間を考えた効率的パッキング・収納を考えた効果的な撤収を、諸椅子の時間内で実践する。</p> <p>②天候等による方法や対応の変化を理解し、実践する。</p> <p>③収納時の点検をし、破損した物を修理もしくは補填し、班装備を整備する。</p>	<p>①つまりは、保管できる状態をその場で作れるかどうか…である。できるのであれば行うし、できないのであれば帰ってから実施する。現地で無理に行うことはない。ただ、帰ってから直ちに乾燥収納ができないのであれば、現地で無理してもある程度までの作業をしておいたほうがいい。 「空間を考えた」とは、要はタープの利用だ。雨天でテントが濡れてしまっている場合は、泥を付けないうち、また、汚れているものときれいなものを接することのないよう、ブルーシート等防水布にくるんで、他のものをそれ以上濡らさないようにして、持ち帰る。</p> <p>②も同様</p> <p>③まずは、大切に使うって破損をさせないことが第一。 次は、メンテ・修理をして長く使うこと。安易に買い換えないように、また、グッズと同じで、多少高くてもローカーでちゃんと修理を受けてくれるものを揃えるようにする。</p>

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント
5. 野営工作物	<p>①キャンプに必要な野営工作物（かまど、調理台、食卓等）について知り、基本的な設計図を描いて、木、竹などの材料を用い、3種以上を作製する。【野営章(6)】 ※高さ、大きさ、材料の部品数、機能等を考慮。 ➡ §7、§13)</p> <p>②工作に必要なロープ結びを知り、に使用する。(Step1-6-①「結索」と関連) ➡ §6)</p> <p>③できた工作物を実際にキャンプで使ってみて、不備な点等を改善し、さらに使いやすくする。 ➡ §13)</p> <p>④キャンプ地にあるものを利用して、キャンプで必要と思われる個人用品を作製する。【TB-E3-5】 ➡ §STA)</p>	<p>◎どうして野営工作物を作るのか……。創意工夫、習得した手技の活用、そして快適な生活。この快適がキーワード。それは、安心・安全であること、使いやすいことである。それは炊事の効率化と確実性に繋がり、時間の短縮、心の安らぎとなり、余裕のあるキャンプが楽しさとなり、意欲となりスカウトを成長をさせる。また一方では、モノの構造と構成を実際に知る機会となり、何回も繰り返すうちに他のモノについても意識することなしに構造と構成を理解できるようになる。それが、将来多くの場面で活かされてくる。</p> <p>①班の作業である。何をどう作るか。設計図を作ることで、必要な材料の確保、その加工、出来上がりのイメージを協議・共有でき、役割分担ができる。</p> <p>②どこにどんな結びを使うのか、どの結びを使うのが適切なかを検証しよう。</p> <p>③チェックポイントは、高さ、大きさ、ぐらつき、突起物の有無、物を置いたときの具合等の改善か。</p> <p>④個人装備の作成である。持参するには重くかさがあるため持ってこなかったもの、忘れてしまったものも対象。手軽な物はハンガー、コップ掛けなど。</p>	<p>①左記 Step1-5-①をより発展・完成させた野営工作物（かまど、調理台、食卓、工具置き場を含む3種類以上）を角材、竹、丸太等を使用して作製する。ただし、全て可搬型とし、その部材の接続・結合は紐とする。</p> <p>②工作に必要なロープ結びに習熟し、実際に工作物に使用する。(Step1-6-①「結索」と関連)</p> <p>③汚水処理の際に必要な措置を調べ、環境に配慮した汚水穴を実際に作製・使用する。</p> <p>④麻紐、ジュート紐、細引き、針金等3種類以上の縄等で、縛材をする場合の長所と短所を実証しそれをレポートとして報告する。</p>	<p>①「発展・完成」の意味は、より確実な結び、無駄のないサイズ、確実な構成・構造であって、特に多機能を求めているワケではない。特にサイズに関しては、必要最小限の大きさを目指す。すなわち、使用材料の無駄を省き、可搬性を良くすること。ただし、それによって機能が劣ることは意に反する。</p> <p>②少なくとも参考書を見ないで結べること。</p> <p>③汚水中に含まれる固形物はすべて漉し取ることを第1に考え、そのための工夫をする。</p> <p>④素材そのものの引っ張り強度、ねじり強度、摩擦度、縛圧、切断使用する用具、使用後の処理、水分の影響等、実際に使うことを想定したものを。</p>
6. 結索 -1. 基本	<p>①次のなわ結びが確実にできる。 ・本結び ・一重つぎ ・ふた結び ・ねじ結び ・もやい結び ・8の字結び ・てぐす結び ・巻結び ・引きとけ結び ・角しばり (以上は★事前課題)</p> <p>・ちぢめ結び ・腰掛け結び ・張り綱結び ・からみ止め ・床しばり ・筋かいしばり ・はさみしばり(2脚、3脚) (以上は Step1 で実習) ➡ §6)</p>	<p>①まず、一通りお復習する。そして、できる限り野営法研究会内にそれを使ってみることで、手技として定着させる。 ※スカウトキャンプで使用する「ロープ結び」はだいたい決まってくる。特にキャンプのシーンでは実際にロープや結びを多用するので、覚えやすい。</p>	<p>①安全なロープ選び(構造・材質・用途)を理解する。★</p> <p>②ロープとの正しい使い方と保守を理解する。★</p> <p>③安全な結びと用途を理解する。★ 《①②③「カラー図解・ロープとひも結び百科(富田光紀監修・主婦の友社)」、第4章参照》</p> <p>④次のなわ結びが確実にできる。 ・よろい結び ・てこ結び ・バックスブライス ・索端止め ・バタフライノット</p>	<p>①「安全な」とは、結ぶプロセス、結んだ結果、解くとき……も含まれる。</p> <p>②使っている状態なのか、ダメなのかを判断することを個々では考える。</p> <p>③5-③と同様</p> <p>④③と同様だが、実際に野営の現場で使ってみることを。</p>
-2. 応用			<p>①これまで取得した結索技能を活用して、班サイトのゲート、筏、軽架橋、信号塔【集章(2)-イ】を作成する。</p>	<p>①イメージとすれば、ジャンボリーの隊ゲート。もしくは筏、軽架橋、信号等(集章課目)。</p>
7. 食事・炊事 -1. 基本	<p>①和洋包丁の安全な使用法と、研ぎ及び手入れができる。 ➡ §14)</p> <p>②班の炊事に適するかまどを2種類以上作る。【TB-E6-2】 ➡ §8)</p> <p>③炊具の正しい使い方と手入れができる。【炊事章(11)】 ➡ §8)</p> <p>④炊具箱に、手入れ及び乾燥した炊具を移動と利用を考慮し効果的に収納する。 ➡ §14)</p> <p>⑤焚き火で使用する鍋等に、クレンザーやアルミフォイルでコーティングを施し、実際に使用する。コーティングの有無による、水や洗剤の量や手間等、環境と時間等の軽減について確認する。 ➡ §8)</p> <p>⑥マッチを防水加工し、携帯用の防水容器に入れて提出する。【炊事章(4)、TB-E4-1】 ➡ §STA)</p>	<p>①和包丁は片刃(右利き・左利き)、洋包丁は両刃である。そして刃にはエッジ角があることを知った上で研ぐ。</p> <p>②「立ちかまど」と他にもう1種類とする。堀かまどでも石積みかまどでも可。</p> <p>③使い方としては、包丁は刃の向きと添手。鍋は、材質と熱伝導を考え火加減の調整。手入れで注意するのはテフロン等のコーティングが施されている鍋やフライパン。温度管理や金属ヘラの使用などに注意。汚れ、焦げは必ずきちんと取り洗う。全ての炊具はきちんと乾燥させること。</p> <p>④いかにコンパクトに収納(スタッキング)するか。運搬時に互いの接触による傷みをいかに防止するか。基本的には、キャンプ期間は収納ボックスから出して調理台等に置くから、ここでは純粋に効果的な収納を考える。</p> <p>⑤実際に課題を実験してみよう。コーティング材には他にどのようなものがあるかも考えてみよう。 要は、洗い落とすための「洗剤と水の量」と、コーティングによる「洗剤と水と量とコーティング剤」の環境へのダメージの与え方の問題となる。</p> <p>⑥これも実際に行ってみる。蠟とかニスが定番か。防水容器は以前はフィルムケースだったが、今は100円ショップでいろいろなもの売られているので適切なものを見つけてみよう。</p>	<p>①非常食(簡易食品を含む)5種を挙げ、それを調達し、その扱い方を確認する。また、保存方法を知る。【炊事章(10)改】</p> <p>②青少年期における発育成長に必要な栄養素の種類と量、これらを多量に含有する代表的食糧品を例示する。◆【炊事章(8)】</p> <p>③②をもとに、栄養のバランスを考えて、班キャンプ3日分の献立表を作り、次の事を計算して表にする。 ・栄養価計算表 ・必要な食糧材料表 ・食料品店で調べた単価による経費見積表 ・1人当たりの費用(分担金)。◆</p> <p>④環境に優しい炊事法、ゴミを出さない調理法を研究する。</p>	<p>①ここで言う非常食とは、荒天や遭難等の非常事態により通常の食糧の供給が困難になった時のために準備しておく保存性に優れた食料のこと。震災後は行動時だけでなく、ペットボトル詰め飲料水のほかに、乾パン・缶詰・レトルト食品・インスタント食品など災害時も想定したものを揃えるようになった。水道などの社会的な供給インフラの機能が停止することを想定し、常温で保存が利き、屋外でも特別な器具なしに飲食できる物である必要がある。しかしアウトドアの行動時では、自分で持ち運びをするという条件が加わる。最低でも一昼夜分は常に保持する。</p> <p>②これは、特に長期キャンプの場合に必要な知識だ。極端に偏った食事をしない限り、通常の家での料理の延長で献立を考えればいい。しかしながら、指導者としては、栄養素のバランスと基本的な食品は知っておくべき。栄養素の他にもミネラル・ビタミンなども一通り知っておこう。</p> <p>③これは、参考となる料理参考書を見ながら作ってみる。</p> <p>④考えよう</p>

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント
- 2. 焚火・燃料	<p>①野外で火をたくときの注意事項を知り、その準備作業ができる。【TB-E6-1】 ➡ §8</p> <p>②炊事に使う火を、マッチ2本以内で起こす。【TB-E6-3】 ➡ §8、朝食、夕食、昼食</p> <p>③樹木の種類によって、材の硬軟、火つきの難易、火持ちの良否、火力の強弱があることを知る。【炊事章(2)】 ➡ §8</p> <p>④キャンプ地においてマキの保管方法を知り、いつでも火が起こせるように準備する。【TB-6-5】。 ➡ §8</p> <p>⑤ガソリン、灯油、ガスについて、それぞれの燃料の特徴と、野外で携行・保管する場合の注意事項を説明する。【TB-E4-2】 ➡ §8</p> <p>⑥ガソリン、灯油、ガスを使用するキャンピングストーブ等を使用して炊事をし、取扱上の注意事項・特徴・手入れの方法が説明できる。【野営章(8)】 ➡ §8</p>	<p>①まず第一に延焼の防止対策を挙げる。落ち葉等の除去、防火用水の準備、風除けの設置、穴やかまどの設置、強風時や乾燥注意報発令時では行わない、終わったら完全に消火する……等が考えられる。次に十分な薪の確保→薪が切れて火守りがその場を離れないように。必ず責任者がその場にいるような役割分担を。 ・たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消して、投げ捨てないように。</p> <p>②燃焼のメカニズムと「火を育てる」ことを知ってもらう。育て方の基本を体験してもらう。</p> <p>③これについては、実際に燃やしてみ、それを確認してもらう。針葉樹(樹脂多と少)と広葉樹(堅柔)、生木と枯木と腐敗木。キャンプファイア時に確認してもいいかも。</p> <p>④薪拾いの方法について説明する。落ちている枝だけでなく、枯れた枝、切り取って乾燥させた枝。太さや着火度合いによる分類も検証する。薪置き場と薪割り場(安全含む)についても言及。</p> <p>⑤液体燃料の種類と収納容器について。移動時の熱・気圧の関係について(飛行機への持ち込み不可)。キャンプ地での保管については、テント内は×、火の近くも×、冷暗所で。</p> <p>⑥燃料別に比較検討ができるよう器具を準備しておく。余熱、ポンピング、気温がポイント。手入れについては、燃料タンクの錆や水分の混入についても言及。分解掃除を見せてあげられればベター。</p>	<p>①戸外であり合わせの材料を用いて、地面を掘らない方法で班キャンプ用の3種以上のかまどを作る。【炊事章(1)】</p> <p>②キャンプ地付近で、得られる樹木を用いて、3食分の薪を作り実際にそれで焚き火をする。</p> <p>③安全で効果的な「焚き付け材」を自作し提出する。</p> <p>④ガソリン、灯油、ガスを使用するキャンピングストーブ及び薪による炊事における、自然保護及び地球環境保護(CO₂排出)の関係について理解している。◆【炊事章(3)】</p>	<p>①地面を掘らない……ということは、石、丸太等が直ぐに思い浮かぶが、あり合わせということは、U字溝やブロック、一斗缶、ペール缶なども視野に入る。 ②とにかくやってみよう。</p> <p>③一番簡単なのは、牛乳パックを細く切ったもの。おがくずの石油をしみこませたものなど、密閉容器に入れて運搬しなければならないものは避ける。</p> <p>④化石燃料とバイオマスという括りで学術的に述べるのではなく、単純に如何に効率よく、かつ適正な量を短時間で、最小限の燃料で作るかを考える。 それが結局は、自然保護に繋がる。</p>
- 3. 調理	<p>①飯盒やコッヘル等キャンプ専用の調理用具を利用して、米飯及び味噌汁を班員分作る。 ➡ §8、朝食、夕食、昼食</p> <p>②野菜・肉・魚・玉子(単品でも複数でも)を材料とした2種以上のキャンプ料理を作る。 ➡ §8、朝食、夕食、昼食</p>	<p>①単に料理を作るのではない。ここでは、段取りと分担、そしてゴミを出さない、洗いものを増やさない、燃料を無駄にしない……まで考える。</p> <p>②同上(ここでは、栄養価については言及しない。料理を作ることが目的。)</p>	<p>①次のキャンプ料理を作る。(1班=4人分とする) ・食用野草を含む野菜料理：3種以上 (※含む山野草を採取上の注意事項の説明。【TB-E2-4】) ・牛・ブタ・鶏などの肉料理：2種以上 ・塩干魚及び生魚の料理：3種以上 ・小麦粉を用いたダンパー、またはツイスト【炊事章(5)】</p> <p>②米をコッヘルで炊く場合の、米の新古、水加減、火力と炊飯時間の関係を研究し比較表を作成し提出する。◆</p>	<p>①山野草……は基本的に非常時用である。良く似たものに毒性があるものも多いため、確実な知識と選別ができない限り取り上げなくていい。 他のものについては、献立の中を含むものとする。</p> <p>②「野営法講習会」ノートに関連資料あり。</p>
- 3. 調理	<p>③米飯、生肉、生魚の食品を携行するための腐敗防止法(簡易加工含む)と、キャンプ地における貯蔵法(クーラーボックスを含む)を理解する。【炊事章(7)】 ➡ §8</p>	<p>③腐敗のメカニズムについては、Step2で行うので、ここでは知識を与え、それを実際に行ってみることに主眼を置く。よく言われているのは「味噌漬け」「油漬け」「塩漬け」「干す」「燻製」など。クーラーボックスは保冷剤の効果時間や創意工夫を。昔よく行った地面に穴を掘って貯蔵庫とする……は、穴の深さが問題となる。</p>	<p>③左記Step1-7-3③について、腐敗のメカニズムを理解し、腐敗防止法を3種以上検証する。</p>	<p>③「発酵」「腐敗」この二つの状態は、食品成分を微生物が分解した状態であることには変わりありません。では、どんな違いがあるかということ、科学的には「発酵」とは、 「発酵」糖類が分解されて、乳酸、アルコールなどが生成されること。 酵母菌(イースト)や乳酸菌が活躍し、糖分などを分解し、有機酸、炭酸ガス等を生じる作用です。 「腐敗」主に有機物、特にタンパク質が細菌(バクテリア)によって分解され有毒な物質と悪臭を生じる変化です。 となります。しかし、糖の分解された状態でも腐敗と呼ばれることもあり、必ずしも原料や、代謝産物の違いによって区別されているものではありません。つまり、最も明確な分け方は、 「発酵」人の役に立つ食べ物を生み出すこと。 「腐敗」人が食べられない食べ物となるように食品が分解されること。 となります。すなわちこの二つの言葉は、私たち人間の価値基準によって使い分けられているにすぎないのです。 【腐敗防止法】 ・加熱殺菌。加熱することによって病原性の菌を殺します。 ・紫外線・放射線照射(まな板など天日干し)。 ・除菌(除菌スプレー、除菌洗剤など) ・薬品(塩素系漂白剤)などによる殺菌もあります。 【保存】 代表的な例 ●冷蔵・冷凍 菌が死滅するわけではなく、温度を下げる事により腐敗を遅らせるだけ。 (つづく)</p>

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント
				<ul style="list-style-type: none"> ●塩蔵・糖蔵 塩漬け（漬物・塩辛）や砂糖漬け（ジャム・マーマレード・羊羹）することにより食物の中のAw（水分活性）を低くします。 ●乾燥 食物から水分を奪ってしまうのだから、菌が繁殖し様がありません。代表的なものは下記のとおりです。 自然乾燥・・・すみ・干し柿 加熱乾燥・・・米 凍結乾燥・・・野菜・インスタントコーヒー（フリーズドライともいいます） ●くん煙 くん煙することにより抗菌作用が生まれます。
8.安全・衛生 -1.基本	<p>①キャンプの衛生について、次の事項が説明ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テントの湿気の防止と乾燥作業の必要性とその方法。 ・便秘の防止と対策。 ・水の飲み過ぎの害とその防ぎ方。適切な水分の補給。 ・熱中症の予防法と対処の方法 ・害虫の防除と駆除法。 ・昼間着た下着をつけたまま寝床に入らない理由。 ・寝るテントに食品を蓄えることが有害である理由。 ・野営トイレの衛生管理方法。 <p>（⇒ §10）</p>	<p>①《湿気》●湿気の原因→地面からの湿気、夜露、結露、雨など。●湿気的作用→体調変化（冷えからくる頭痛、腹痛、便秘、下痢、不眠、発熱）●対策→乾燥に心がける。昼間は扉を開け、ウォールをあげておく。グランドシートを外して干す。シート下の地面も乾燥させる。</p> <p>《便秘》●原因→環境の変化。●症状→腹が張って苦しくなる。腹痛、頭痛、吐き気、不眠、精神的不安、思考能力の低下等。●防止策→普段通りの生活リズムの維持、果物の摂取（リンゴ酸、クエン酸）等</p> <p>《水の飲み過ぎ》●害→腹痛、バテ。●補給→スポーツドリンク、食塩添加のトマトジュース麦茶を一口ずつゆっくり飲む。清涼飲料水は不可。</p> <p>《熱中症》●原因→強い日差しのもとでの重労働や長時間の歩行等。●症状→頭痛、吐き気、めまい。顔が赤くなり、皮膚は乾燥、早い脈や呼吸。●予防→適当な木陰での休憩、帽子の着用、汗が蒸発しやすい衣服の着用。水分の十分な補給。</p> <p>《害虫》●対策→生息環境を取り除く。殺虫剤。</p> <p>《着替え》下着の着替えは汗を吸うことで、発汗をよくし体温を一定に保つことにある。なるべく乾いた乾きやすい材質のものを。昼間着た下着はすでに汗を吸っていて、また清潔を保つことから、乾いた下着を寝る前に着るように。</p> <p>《テント内の食料》●食料は原則として冷暗所で害虫のなどを防御して保存する。テント内は、体温や人いきれで温度・湿度が高く食料が腐敗しやすいこと、害虫等呼び寄せることになる。</p> <p>《トイレ》土による濾過、地中バクテリアによる分解を考慮。</p>	<p>①左記 Step1-8-1-①を実践し理解をより深めると同時に、原隊のキャンプで実際に指導する。</p> <p>②スカウトの前の喫煙について、その問題点と影響を列挙し、その対策と必要措置を考える。</p> <p>③川などの自然水を使用するときの簡易濾過装置を図解し、作製する。また、滅菌ができる。★【炊事章(6)】</p> <p>④キャンプにおける用便、ゴミ処理ならびに食料保管について、衛生上注意する点を知り、実際に1班が使用するのに十分な便所、ごみ穴を作る。【環境衛生章(6)】</p>	<p>①これらについて、「なぜなぜどうして」の観点から、考えてもらいたい。</p> <p>②問題点は、スカウト精神との関係にある。喫煙を止める勇気と意志、そして受動喫煙による影響、これを「おきて」に照らし合わせてみよう。「隊長の背中を以て指導する」その隊長本人が、それを示せないところに、大きな問題点があることを見逃さない。</p> <p>③正直言って、この課題はどうかと思う。簡易濾過装置を使ったとしても、決して「飲料」レベルの水質は得られない。確実性を求めるのであれば、市販の濾過グッズを装備しておくことを考えるべきである。また、滅菌については、いろいろな方法が伝えられているが、手がかかるものが多い。滅菌剤を使うことがベスト。これらは、口に入るものであることを考え、また、現代の日本人の対菌性の低下も含めて、考えてもらいたい。</p> <p>④S2-8-2-①に関連する。「便所」は実際に作ってみよう。実践躬行。「ゴミ穴」は、今はバケツを利用する。もし掘るのであれば、ゴミを残さないことをどう考えるかポイントとなる。焚き火を使うのであれば、乾燥・燃焼することができるが、CO₂の排出削減的視点からは、何時燃やすかがミソとなる。食料保管についても同様。</p>
-2.点検	<p>①朝と夜の点検の重要性と心構えについて知る。【野営管理章(3)】 （⇒ §10）</p> <p>②「夜の点検は慈母のごとく、朝の点検は厳父のごとく」の意味を理解する。 （⇒ §10）</p>	<p>①点検は、キャンプの基準、安全・衛生を確保し、健康の維持、生活指導と進歩と向上心を励ますために行うものである。また、朝の点検と夜の点検は、全くやり方が異なることを知らせる。</p> <p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●キャンプ基準の維持 ●班制と進歩制の維持 ●規律とチームワークの維持 ●整理整頓と日々の改善 ●健康管理と衛生管理 ●災害防止と安全管理 <p>②《朝の点検》 主として班員の確認、テントの状況、寝具、衣類、備品、炊事場や便所の状況、健康や衛生の状況に重点をおく。それは、これからの1日を安全かつ快適に過ごすため、スカウトの精神を引き締め、安全確認項目の周知と確認をするため厳しい父親に「厳父」の心で愛情をもって行う。</p> <p>《夜の点検》 主として安全衛生と整理整頓の状況に重点を置く。消灯後にスカウトの安全を願って静かに行う。不備な点があれば、一応修正処置を施して、翌朝の点検時に注意・指導する。今日一日でどれだけ進歩改善されているかを評価する。スカウトが安心して安らかに眠れるよう易しい母の心をもって行う。 ※ 詳しくは「指キャン」P.48 - 55 参照のこと。</p>	<p>①隊キャンプを点検し、次の項目について評価表と点検報告書を作成する。【野営管理章(2)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ア・キャンプ地の選定（水質調査を含む） イ・食糧と燃料の貯蔵 ウ・便所とゴミ捨ての衛生処理 エ・炊事場の設計と工作 オ・炊具、工具の手入れと整頓。 カ・キャンプにおける安全と秩序保持 キ・役割分担とチームワークの良否 <p>②朝の点検と夜の点検の重要性と心構えを説明し、実際におこなう。</p>	<p>①「ア」については、ほとんどの場合選択の余地がないと思われるが、その中でもできるだけ条件の良いところを見つけられるように。</p> <p>・「イ」今は、大型クーラーボックス、発泡プラコンテナ、保冷バッグなどがあり、山間部でも新鮮な食料を調達できるスーパー等があるので、これを上手に活用する。キャンプ場での保管については、従来の通りの方法が有効。</p> <p>・「ウ」これについても従来通りの方法が有効。ゴミ捨てについては、特に生ゴミは蓋付きバケツにゴミ袋を入れて、と対野生動物、対昆虫を考える。持ち帰れる手立てがあるのであれば、原則持ち帰ることを考えて、最小限の排出量にする等の工夫を。</p> <p>・「エ」まず、最低限必要な大きさのもの、移動ができるもの、機性能性、信頼性を確認すること。</p> <p>・「オ」使ったら直ぐに洗って乾燥させるが原則。いつまでも残り物を鍋等に入れておかない。すなわち、必要な量を見極めて作ることに繋がる。</p> <p>・「カ」安全については、多角的に検証する。潜在危険をどれだけ解消できるかを、このStep2では主として考えて行きたい。秩序保持については、常日頃の指導者としての姿勢にも関わってくる。スカウトと指導者がどういった関係であればいいのか、堅苦しく言えば「スカウト」とはどうあるべきなのかに係ってくる。</p> <p>・「キ」最も簡単な見分け方は、時間内に所定の作業が完了しているかどうかである。</p> <p>② Step1 の解説を参照されたい。</p>

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント
-3. 安全な照明	<p>①安全と周囲への配慮から、夜の野営地における適切な明かりの取り方を知る。 《➡ §10》</p> <p>②ガソリン、灯油、ガス、乾電池、ロウソクを使用するキャンプ用灯火のうちの燃焼系灯火3種類以上を正しく使用する。【野営章(8)】 《➡ §10》</p>	<p>①まず第一に、必要十分な明るさが必要範囲で確保できれば良い。必要以上でも以下でもよくはない。煌々とまばゆい照明は野営には似合わないし、他のキャンパーや野生動物等に悪影響を及ぼす。少ない明かりだと安全が損なわれる。ということで、複数の照明をその照明器具の特長を生かして配置する。特徴は②で述べる。</p> <p>②ガソリン、灯油、ガス、乾電池、ロウソクを使用する各照明器具を用意する。燃焼系というと乾電池を除くものとなる。現在最もポピュラーなのはホワイトガソリンとカートリッジガスであり、灯油を使用するものやロウソクのはほとんど見なくなった。そのため3種について使用法を学ぶと言っても、ガソリン、ガスの2種で良いだろう。</p> <p>※現在は、高輝度LEDが急速に普及し始めており、価格もこなれてきた。それを使用した照明器具が多数出てきた。それも考慮する必要がある。特にヘッドライト・ハンディライトそれぞれに特長があり、得意とするシーンがある。どちらか1つを選ぶのであれば、単三・単四電池を使用するヘッドライトとなろう。</p>	<p>①夜の野営地（サイト、テント内、各施設）における適切な灯かりの取り方を理解し実践により確認する。【野営章(8)】</p> <p>②左記 Step1-8-3-②について、灯火の特徴の比較表を作成し、取扱上の注意事項・特徴・手入れの方法が説明できる。</p>	<p>①「サイト」は、虫対応、安全対応を主に考える。「テント内」では、酸欠、一酸化炭素、二酸化炭素と、深夜のトイレ等の個人で使用する明かりについても言及する。個人のライトをどこに置くかも考えさせる。「各施設」とは、共同のトイレ、洗い場等となるだろうが、エコ・節電のために常夜灯は使用しない方向で話す。使用しないで済むために、寝る前に何をすればいいのかを考えさせる。</p> <p>②実際に使って、比較表を作って確認しましょう。</p>
-4. 事故の予防・対応	<p>①ナイフ・ナタなどの刃物や、ナイフ・のこぎり等工具の構造と各部名称、及び正しい使い方と手入れと保管の方法を知る。 《➡ §14》</p>	<p>◇ここではまず、危険防止能力や、刃物・工具等の安全使用レベルを高めることを第一に考える。つまり基本的な使い方をマスターする。</p> <p>①刃物によって、使用方法は異なる。また例えば同じナイフでも国によって、その使い方は異なる。スカウトに指導することを考えると、隊として同じナイフを揃えることが大切となるので、十分なる検討の上で、調達する機種を決めること。</p> <p>刃物を持つ手に手袋をするかどうかや、他のスカウトへの安全確保（作業エリアの確保）にも言及する。また、使い方だけでなく置き方も知らせる。</p> <p>※特に近年ナタによる自損事故が多数発生しており、隊での十分な指導が求められているところ。ここでは、それについても言及されたい。</p>	<p>①キャンプ中に起きるかもしれない突発事故（例えば急病、火災、盗難、虫害、風水害など）の予防と起きた場合の運営体制と対応措置について説明できる。◆【野営管理章(4)】</p> <p>②水辺または水泳プログラムを有するキャンプの安全管理について、特に注意する点を説明できる。【野営管理章(6)】</p> <p>③指導者のキャンプにおける飲酒について、その問題点と影響を列挙し、その対策と必要措置を考える。</p>	<p>①これは大切な事です。単に「知っている」だけでなくシミュレーションをして、それぞれそのプロセスを追いながら確かめることが大切です。</p> <p>②基本となるのがパディシステムです。これによる相互チェックと一定時間でのチェックを併用すること、そして監視員の配置、その前に、下見と水泳の範囲と明示、注意事項の確実な伝達も忘れないように。</p> <p>③万一の事故や災害の際の、正確な判断、的確な措置や行動、車での搬送など、キャンプの管理者に求められるものは多岐に亘ります。隊長は「そなえよつねに」で、いつ何時でも対応できる、対応するぞという自覚がなければなりません。「おきて」の最初に出てくるのは「スカウトは誠実である」すなわち、信頼に値する者＝スカウトであるわけですから。この信頼を獲得するために、何をすべきか、それを考えてもらってください。</p>
9. 救急法	<p>①救急法については、指導者救急法講習会（基本）を修了する。 ※事前の修了は求めてはいない。そのため、未修了だからといって認定しないということではない。</p>	<p>①ただ、指導者救急法講習会（基本）を修了すればいいというわけではない。救急法は相手に施すことであり、ある場合は人命を左右することもある。それを意識して、単なる方法としての救急技法だけでなく、その根拠と効果についての知識を身につける。</p> <p>※この野営法研究会では、特に取り扱わない。</p>	<p>①救急法については、指導者救急法研究会 Step1（上級）を修了する。</p> <p>②ターゲットバッジ B5（救護）を実際に行って検証する。</p>	<p>②実際にやってみましょう。</p>
10. セレモニー・点検	<p>①キャンプにおける儀式、儀礼について知る。 《➡朝礼後》</p> <p>②国旗の掲揚及び降納の方法について知る。 《➡朝礼時》</p> <p>③朝礼、終礼の方法について知る。 《➡朝礼後》</p> <p>④スカウトツォウンについて知り、実際に行う。 《➡スカウトツォウン時》</p> <p>※儀式とは、一定のきまりに従って行う作法（言動・動作の決まりに重点あり）。儀礼とは、形式を整えて行う礼法（精神的なものが根底にあり）。</p>	<p>◇儀式・儀礼は、精神的にスカウトを成長させる教育的効果があることを知らせる。ここでの成長とは「心」「精神」「情緒」であり、また宗教との接点ともなり得る。</p> <p>①意識を高めるもの、精神を豊かにするものがある。前者には「点検、朝礼」があり、後者には「スカウトツォウン、終礼」がある。また、キャンプファイアの開会・閉会セレモニーは、目的によってどちらともなり得る。</p> <p>②国旗の掲揚・降納は、「コースにおける基本動作」を参照のこと。カブとボーイ以上の掲揚法は異なることや、旗の掲揚の方向（流れ）、旗の仕組みにも言及する。</p> <p>③朝礼と終礼は別紙を参照のこと。</p> <p>④スカウトツォウンについても、別紙を参照のこと。</p>	<p>①キャンプにおける儀式、儀礼、キャンプファイア、スカウトツォウンの教育的意義について理解し、説明できる。◆【野営管理章(7)】</p> <p>②キャンプ地において国旗の掲揚の準備をし、掲揚及び降納を適切に実践する。</p> <p>③朝礼、終礼についてその意義を理解し、実践する。◆</p>	<p>① Step1 の「知る」から、1 ランクアップして「理解し、説明できる」ことが求められます。しかしながら、この課題を深く考えていくと、大変長い時間が必要となります。ここでは、スカウトキャンプの主旨をふり返って、それをどう効果的に気づかせるか、意識させるかを考えましょう。どんな場と雰囲気や、また、どんなキャンプ地もと心構えで臨むのかを実体験しましょう。</p> <p>②これは単に掲揚法を確実に行う、だけではありません。掲揚柱の場所、位置、方角、高さ、綱の張り方、風向きなどについても考えさせます。</p> <p>③朝礼と終礼は別紙を参照のこと。</p>

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー資格認定課目)	解説及びポイント
11. その他の技能	<p>①天気予報等の情報の収集の必要性和伝達法について知る。(ラジオ、携帯電話、PC等を含む) 《⇒ §10》</p> <p>②炊事の際の防火対策について説明する。(マキ、ガス、灯油、ガソリン、及び延焼防止) 《⇒ §10》</p> <p>③野火の適切な消火方法並びに水を使わない消火方法を知り、キャンプで実践する。【TB-6-4】</p> <p>④地表を保護して火をたく方法を説明し、実演する。【TB-6-6】</p> <p>⑤太陽、月、星による方 発見法を5つ以上知る。特に星座による北極星の発見法を2つ挙げ、その実演をする。【天文章(2)】 《⇒ §9》</p>	<p>①自然災害から身を守るため、予めそれを予測し対策を取ることが指導者としては大切となる。特に落雷、集中豪雨、ゲリラ豪雨、炎天、台風、暴風、風雪等は避難や撤退が求められる事もあり、いち早く判断を下せるだけの確実な情報を入手することが必要。</p> <p>②器具の誤使用による事故を防止するため、使い方を確実に理解させる。次に燃料の安全な保管と運搬を理解させる。これらについては、事例を挙げて危険な使用方法を提示する。次に燃料別に適した消火方法を習得する。→これは「8-安全」セッションの最終仕上げとして行う。</p> <p>③平成13年施行の廃棄物の処理及び清掃に関する法律およびそれに基づく「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」により、風俗慣習上又は宗教上の行事を行うために必要な廃棄物の焼却や、農業、林業又は漁業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却など以外は禁止されている。が、実際に野火が発生した時にどうするかを知っておく必要がある。火が燃えるには、酸素・温度・可燃物が必要なので、そのいずれかを遮断することで消火ができる。《酸素の供給を絶つ》純毛の毛布や厚い帆布を濡らして掛ける。土をかける。《温度を下げる》水をかける、土・砂をかける。《可燃物をとる》防火帯を作る、迎え火を放つ、キャンプを切り倒す…等がある。キャンプで実践可能なものは毛布・土かけ等だろうか。</p> <p>④地表の保護は、地中のバクテリアや細菌を生かし、また植物の生育に支障をきたさないことがその目的。すなわち直火をしないこと。つまり焚き火と地面の間に遮熱物を置いて、熱が地表に伝わらなくすること。それには、焚き火台、BBQコンロ等の器具、コンクリートブロックや石膏ボードの上で焚く方法と、地表を草ごと切り取り掘って、そこに穴を掘り焚く方法がある。後者は焚き火後に埋め戻す時に焚き火で変質した土を戻した土を耕し攪拌してその上に切り取った草付きの土を載せる。</p> <p>⑤まずは、歌集の「星方位」の歌詞を実際に検証しよう。次に太陽と時計を使った方位測定を実際に行ってみる。月については、月齢と月の出入の時間を知っておこう。</p>	<p>①天気予報等の情報の収集を常に行い、キャンプへの影響を考え、その対策を実際に講じる。</p> <p>②雷に関する一般知識と避雷について具体的な説明と避雷行動が実践できる。【測候章(2)改】</p> <p>③獣類、昆虫、鳥類、魚類、雲の状態を観察して行う天候の予想法を3種以上知る(観天望気)。【測候章(4)】</p> <p>④外出着(上着、ズボン、シャツ、ソックス)及び靴を20秒以内に脱ぎ、水中に飛び込むこと。【水泳章(3)】</p> <p>⑤次のスカウト用具が消火に役立つ場合を説明し実演する。 ・ロープ ・オノまたはナタ ・グランドシート ・フライシート ・毛布 ・笛 ・ネッカチーフ ・スカウトハット ・布バケツ 【消防章(6)】</p>	<p>①Step1に加えて、実際にパソコン、携帯などを使って天気予報や降雨落雷レーダーを見て、その推移と進路を確かめてみる。川の増水、土砂災害予想、降雨によるキャンププログラムへの影響、落雷対策など、近年の異常気象は生命の危険にまで発展するものがあるので、最新の正しい気象情報を知っておこう…ということを是非伝えるべし。</p> <p>②ここ数年、県央から県北にかけて、激しい雷雨の発生頻度が増えています。確実な避雷は、鉄筋コンクリート製の建物の中や車の中と言われています。最新の研究では、高いもの(場所)でなくても落雷の危険性は変わらないことが解ってきました。そうすると避雷行動も相当考えなくてはなりません。</p> <p>③観天望気で、いちばん確実なのが「雲」です。雨の兆候となる雲の種類は識別できるようになると良いですね。</p> <p>④これを実際に行うことは、その準備だけでも難しいでしょう。飛び込まないまでも、外出着と靴を20秒以内に脱ぐことはできると思います。やってみましょう。</p> <p>⑤燃焼の三要素のうちのどれか一つを断ち切ることで燃焼の停止、すなわち消火が可能である。そのため燃焼の三要素に対応して、可燃物を断ち切る「除去消火法」、酸素を断ち切る「窒息消火法」、温度を下げる「冷却消火法」があり、これらを消火の三要素という。 ・除去消火法…ロープ、オノまたはナタ ・窒息消火法…グラシー、フライ、毛布 ・冷却消火法…ハット、布バケツ、 ネッチと笛はどこに入るのだろう。</p>
	①「指導者のためのスカウト・キャンプ」P.89-94を読み、理解する。 《⇒ §16》		①スカウトキャンプの点検評価に必要な項目を挙げ、評価表を作成し、実際に評価を行う(原隊でのキャンプでの実践報告でよい)	①原隊のキャンプで実際にやってもらいましょう。
13. その他	①研究会終了直前に、再度個人装備等の点検を行い、それぞれについて使用の有無、頻度、必要な数、装備の過不足等について各自でチェックする。 →使用頻度について確認し、リストを修正する。 《⇒ §16》	①ということは、Step1開始時に、持参装備リストを作成させることが必要。	①研究会終了直前に、再度個人装備等の点検を行い、それぞれについて使用の有無、頻度、必要な数、装備の過不足等について各自でチェックする。	①使用頻度と必要性について再チェックし、「如何に持って行かないか」を考えさせる。無いものは、如何に創意工夫で解決するかを考えてもらう。
14. 認定と検定	①1.～13.までのすべてのセッションを受講し実行することで、Step1の修了が認定がされる。		①1.～13.までのすべてのセッションを受講し実行するとともに、指定された研究レポート◆や、所定の報告書◇が提出され認定された段階で、Step2の修了が認定がされる。 ※セッション毎の修了考査に合格することで、指定された研究レポートの提出に替えることができる。	